

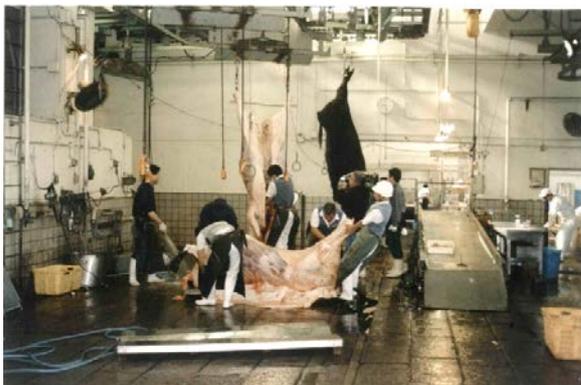
企画展「食を支えてきた舂松一人権歴史館の収蔵品から」

今回の企画展では、舂松一人権歴史館が収蔵する資料のなかでも、「と畜業」や「農業」に関する資料を展示します。

と畜業とは、牛や豚を解体し食肉などをつくることであり、多くの被差別部落で行われてきました。舂松においては、少なくとも1879（明治12）年にはと畜業が行われていたことがわかっています。そして、2000（平成12）年までの約120年間、食肉を提供してきました。と畜場で働いていた人びとは、命の尊さを大切に働いていましたが、動物の命を奪う人として「牛殺し」「気持ち悪い」「臭い」などと差別されてきました。

農業は江戸時代から行っており、明治時代に入っても引き続き行っていました。しかし、自作農は少なく、多くが「日稼」（日雇い）でした。

今回の企画展では、舂松におけると畜業や農業に関する資料を展示し、この地域が「人びとの食」を支えてきたことを紹介します。



閉鎖前の堺市立食肉センターの解体現場

◎開催期間：2017年2月14日（火）から5月14日（日）

◎開館時間：午前9時30分から午後6時30分

◎休館日：月曜日（但し、祝休日の場合は開館）
ねんまつねんし
年末年始

◎学芸員解説：2月23日（木）、4月15日（土）

各日午後2時から

場所：舂松一人権歴史館特別展示室内